

鏡

村上春樹

教科書 p.44 ~ p.52

検印

言葉の学習

1 次の傍線部の読みを答えなさい。

- ① 友達と一緒に乗る。(44・下10)
- ② 散文的な人生。(45・上8)
- ③ 心の底から怖い。(45・上10)
- ④ 一連の紛争の頃。(46・上1)
- ⑤ 進学を拒否する。(46・上3)
- ⑥ 結構新しい校舎。(47・上8)
- ⑦ 左手に懐中電灯。(47・下10)
- ⑧ 相手は素人だ。(47・下11)
- ⑨ 日本刀の真剣。(47・下12)
- ⑩ 嫌だなどと思う。(48・下7)
- ⑪ 下駄箱の横の壁。(49・下12)
- ⑫ 煙草の吸い殻。(51・下2)

2 次の傍線部を漢字に改めなさい。

- ① ユウレイに遭う。(44・上6)
- ② ジョウシキを超える。(44・上7)
- ③ 話をソウゴウする。(44・上10)
- ④ 個人的なケイコウ。(44・下3)
- ⑤ ハクシユをやめる。(45・下7)
- ⑥ タイセイを打破する。(46・上2)
- ⑦ 中学校のサイホウ室。(47・上10)

⑧ コンランした人間。(48・下14)

⑨ 長いロウカを歩く。(49・上9)

⑩ 木刀をニギリなおす。(49・下10)

⑪ タテナガの鏡。(50・上4)

⑫ キミヨウなこと。(50・上12)

3 空欄に「体制」「大勢」「態勢」のいずれかを補いなさい。

- ① 試合の〔 〕がほぼ決する。
- ② 受け入れ〔 〕を整える。
- ③ 社会の〔 〕を改革する。

4 次の□に共通する漢字を答えなさい。

- ① 知識 □ 夏
- ② 向 □ 斜
- ③ 手 □ 子
- ④ 長 □ 横

5 次の語句の対義語を答えなさい。

- ① 分析 ↑ ↓
 - ② 散文的 ↓ ↑
 - ③ 素人 ↓ ↑
- 6 次の□に当てはまる語を選びなさい。
- ① まるで真つ暗な海に浮かんだ固い□のよう な憎しみ。

- ア 船
- イ 冰山
- ウ ボール
- エ 木片
- ② 右手の指先がまるで□みたいに顔を這いあ がっていた。
- ア 波
- イ 火
- ウ 鳥
- エ 虫

7 次の語句の意味として正しいものを後から選 びなさい。

- ① 虫の知らせ。(44・上8)
 - ② 波に呑みこまれる。(46・上3)
 - ③ 体に馴染む。(48・下6)
 - ④ 立ちすくむ。(50・下9)
- ア おぼれる
- イ 受け入れられる
- ウ 時の勢いに流される
- エ 悪い予感がする
- オ 立ったまま動けなくなる

8 次の語句の使い方の正しい方を選びなさい。

- ① 若気のいたり。(46・上5)
- ア 若気のいたりは無茶をする。
- イ 若気のいたりでうまくいった。
- ② 意を決する。(48・下6)
- ア 意を決して気持ち打ち明けた。
- イ 意を決してできることはない。
- ③ 金しぼり。(50・下12)
- ア 金しぼりが来てもいらないと言ってくれ。
- イ 金しぼりにあって冷や汗が出た。

本文理解

1 「そのふたつ」(44・上9)とは、何をさすか。本文に即して説明しなさい。

①	タイプの話
②	タイプの話

2 「散文的な人生」(45・上8)とは、どのような人生か。一五字以内で説明しなさい。

10
15

3 「いや、いいよ、拍手はよしてくれよ」(45・下7)とあるが、この一文はどのような効果を読者に与えるか。適切なものを選びなさい。

- ア 霊も超常現象も出てこないが、十分に怖い話であると読者に意識させる。
- イ 聴衆の反応を示し、読者も聴衆であるかのように語りかけて話に引き込む。
- ウ 「僕」の謙虚さを読者に意識させ、「僕」が信頼できる人間だと示す。
- エ 「僕」の大きな言動を強調し、「僕」の話は信頼できないと示す。

4 「とにかく話すよ」(45・下11)までの部分から、「僕」の状況を次のように説明した。空欄に本文から適切な語句を補いなさい。

- 「僕」は、数人が集まって①〔 〕を披露している場の主人。
- 「僕」は、②〔 〕も見ないし、③〔 〕もないが、人生で一度だけ、④〔 〕

第二段落 (46・上1 ~ 47・上12)

5 「そういうの」(46・上5)とは、どのようなことか。適切なものを選びなさい。

20
10

- ア 大学紛争に参加して、体制を打破しようとする。
 - イ 社会のありように反発して、進学せずに働きながら放浪すること。
 - ウ 社会の波に吞まれて生きていくこと。
 - エ 六〇年代末の紛争を避けて、日本中をさまようこと。
- 6 「ちっとも怖くなんてないさ」(47・上1)とあるが、何が怖くないのか。二〇字以内で説明しなさい。

7 「僕」の体験談の導入部分を次のようにまとめた。空欄に本文から適切な語句を補いなさい。

- 「僕」は、高校を卒業した①〔 〕歳の頃、②〔 〕に進まず、③〔 〕をしながら日本中をさまよっていた。放浪二年目の秋、中学校の④〔 〕の仕事をした。その仕事は、⑤〔 〕と⑥〔 〕の二回、学校を見回るといふものだった。

8 「プールの仕切り戸」(48・上6)の音の擬音語(擬声語)、擬態語を第二段落から一つずつ抜き出しなさい。

9
9

9 「実に変な気分」(48・上16)とはどのような気分か。本文から抜き出し、初めと終わりの五字で答えなさい。